公開用

令和４年度第２回　高砂市文化振興審議会

日　時　令和４年８月２９日（月）１８：００～
場　所　高砂市役所本庁舎４階　４０５会議室

出席委員	会　長	田端　和彦	委　員	渡邊　紀子
	副会長	藤村　清春	委　員	髙橋　賢吉
	委　員	岩見　一美	委　員	野一　洋
	委　員	天野　富美男	委　員	松本　光弘
欠席委員	委　員	松下　尚平	委　員	中野　哲郎

出席事務局職員

健康こども部長	福原　裕子
健康こども部健康文化室長	牛塚　美智子
健康こども部健康文化室 文化スポーツ課主幹	西村　直巳
健康こども部健康文化室 文化スポーツ課係長	永光　麻衣子
健康こども部健康文化室 文化スポーツ課	髙橋　由佳
健康こども部健康文化室 文化スポーツ課	松本　優季

協議事項

１　開　　会
２　あ　い　さ　つ
３　議　　題
　（１）第２次高砂市文化振興基本方針（素案）の修正について
４　そ　の　他
　（１）今後のスケジュール
５　閉　　会

○司会

皆さん、こんばんは。定刻となりました。オープニング時に恒例となっております謡曲「高砂」全員合唱につきましては、今回も新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から実施せず、ＣＤを流させていただきます。お手元の詞章をご覧いただき、声を出さずに心の中でご唱和いただきたいと存じます。

（謡曲「高砂」ＣＤ再生）

○司会

皆様、ありがとうございました。

ただ今より令和４年度第２回高砂市文化振興審議会を開催いたします。

開催に先立ちまして、当審議会の公開についてですが、「高砂市文化振興審議会の運営に関する規程」に基づき、公開とさせていただいておりますが、本日傍聴希望者はございません。

委員の皆様におかれましては、お忙しい中ご出席を賜りましてありがとうございます。

それでは、ここで、本日の資料の確認を行いたいと思います。

お手元の資料の確認をお願いいたします。本日、配布させていただきました資料が、委員席次表、会議次第、先ほどの謡曲「高砂」の詞章、第２次高砂市文化振興基本方針（素案）への意見等一覧、第２次高砂市文化振興基本方針（素案）修正版の５点でございます。おそろいでしょうか。

それでは、まず、会長からご挨拶をお願いいたします。

○会長

お忙しい時間帯にお集まりくださいまして、ありがとうございました。

感染の問題というのがあって、ようやくピークは過ぎたかなというふうに思いながらも、お盆の人の移動というのが非常に大きく影響したせいで、当初の予定よりも少しピークアウトが遅くなっていて、ようやくピークアウトかなという時期でございます。

昨日、実は、太子町で講演会がありまして、政府のコロナ対策委員会の委員でもある岡部信彦先生、よくＮＨＫによく出てこられている、川崎の研究所の先生です。岡部先生と対談をしたんですけども、いわゆる文化的活動の問題というのが、地域の伝統行事等がなかなかできないという中で、コロナの問題というのは、非常に重要な問題ではあり、養生することには越したことはないんですが、今までの伝統活動が消えてしまうことと、どっちが大事なんだろうかという、こういうふうな議論をやっぱり真面目にしたほうがいいだろうというふうなお話がありました。もちろん、命を守るのか、伝統を守るのかと、そういう２択ではなくて、両方がちゃんと

両立する答えというのがどこかにあるので、議論して、どっちかですなんていう総論の立て方はやめましょうみたいな、こんなお話をさせていただきました。

このコロナ禍で、実はこの２年間というのは、何でもかんでも中止でやってきたために、伝統文化なんかが、なかなか継続が難しかったりするというのがほかの地域でも比較的出てるところですし、昨日、赤穂市長ともお会いしましたけど、今年は赤穂は義士祭を３年ぶりにやるということで、やはり、早め、早めにこういうものを復活していかないと持たないという、危機感を非常に感じたところでございます。

本日は、お手元にもう既にお配りさせていただいて、ご検討いただいていると思いますけれども、第２次高砂市文化振興基本方針というものを定めてまいりますが、もちろん、今後も新しい感染症が起きるのは間違いないので、いかにして強靭性を保ちながら、文化を残していくのかという、こういったことも考えていかなきゃいけないのかなというふうには感じたところです。

それから、命を守るために、文化の確保は要らないんだという、そういうような単純なところではなく、もうちょっとこういうことをきちんと、地域レベルで議論できるようにしましょうねというのは、多分、１つの答えだろうというふうには思います。

すみません、長くなりましたけども、そういうようなところで、今日も活発なご意見をいただければというふうに思っております。

どうぞ、よろしくお願いいたします。

○司会

会長、ありがとうございました。

（職員紹介）

○司会

本日の会議ですが、委員、委員より欠席のお申し出がございました。現在出席者８名、欠席者２名ということになっております。審議会規則第５条第２項の規定により、過半数が出席をされているため会議が成立していることをご報告をいたします。

本日ですけれども、新型コロナウイルス感染症対策として、普段より距離を取って席を配置しております。

今後の議事進行につきましては、審議会規則第５条第１項により会長にお願いしたいと存じます。

会長よろしくお願いいたします。

○会長

はい、では私の方で進めさせていただきます。こういう事情、円滑な議事進行にご協力いただき、議論すべきことは議論いたしますのでよろしくお願いいたします。

そうしましたら、今日の議事は本当に非常に大事なところですけれども、でも逆に言うと、ここをしっかりやればということですので、ちゃんと議論していただければと思います。

最初、「第２次高砂市文化振興基本方針（素案）」でございます。これは、事前に皆様のお手元にお配りさせていただいて、それで、いろいろとご意見をいただいているところだと思います。ですから、そういったことも今日また理解いただきながら議論を進めたいと思いますが、まずは、修正のことについて、事務局のほうからご説明をお願いいたします。

○事務局

はい、事務局でございます。説明をさせていただきます。「第２次文化振興基本方針（素案）への意見等」の一覧、あと「文化振興基本方針（素案）修正案」をそれぞれご準備をお願いいたします。

まず、意見の一覧からご説明を申し上げます。よろしいでしょうか。

○会長

はい、お願いします。

○事務局

はい。こちらの意見の一覧でございますが、こちらは、前回の審議会への事前質問、前回の審議会へお寄せいただいた事前質問のうち、素案に関するものと、その回答をお示ししたものと、前回の審議会とその後に事務局へお申し出いただいたご意見を取りまとめております。

それぞれいただいたご意見を「方針の本体」に反映するのか、あるいは「実施計画」に反映していくのかということで、右に方針のところに「○」、あるいは実施計画のところに「○」ということでお示しをしております。

このうち、「方針」に反映するべきと考えたものにつきましては、お配りしているカラーの「修正案」にお示しをしております。

実際に修正を施した箇所には、朱書きと黄色の塗りつぶしでお示しをしておりますので、それ以外の黒字の部分に関しては、特に修正を施していないということになりますので、それを前提でご説明を申し上げます。

まず、一覧のほうをお願いいたします。前回の審議会以降にいただきましたご意見について、ご説明をいたします。

前回の審議会以降ですので、一覧の５番以降でございます。

まず、方針の理念についてですが、つむぎ、つながりということです、その中にうたう「つむぐ」あるいは「つなげる」という言葉を本文中にも取り入れることで、

理念との一体感、あるいは連携を表現すればどうかというご意見をいただいております。

こちらは、言い換えが可能な箇所について反映をいたしました。

次に、謡曲「高砂」自体の啓発ではなく、その持つ意味合いですとか、イメージと施策の融合をという意見をいただきました。こちらも、本文中において一部表現を変更しております。

次に、方針の成果として「創造力の育成」を達成できるように、方針理念に「創造」ですとか「創造力」という言葉を追加してはどうかというご意見をいただきました。こちらは、後ほど改めてご説明をさせていただきます。

この８番以降ですが、実施計画への反映を検討していく項目になりますが、小学生の読みの時間を増やす、各世代が参画できる文化芸術の創造、あと子ども同士の「対面」による体験をしてはどうか、まちを好きになってくれる子どもを育てたい、情報発信手段の検討、ジャズのまちを発信、市民主体の文化活動において、高砂をどのようにうるおいのあるまちにしていくか、というようなご意見をいただいたところでございます。

このうち、先ほど申し上げた「うるおいのあるまち」につきましては、実施計画のほうに「○」をしておりますが、方針への反映も可能であるかなというふうに、今になってになるんですけれども考えておりますので、後々反映について検討をしてまいります。

そして、これらを踏まえまして、実際に修正いたしました箇所について、本編で説明をさせていただきます。本編をお願いいたします。

まず、２ページの中段、民俗というところです。誤植を訂正いたしました。

次に、４ページの中段、もともと「感染症抑制」としておりました。これを「感染症拡大防止」というふうに修正をいたしました。黄色の塗りつぶしの箇所だけの説明を順番にページごとにしていく予定です。今、４ページの中ほどに、文化の再興と発展のために、これからは「新しい生活様式」のもと、感染症拡大、もともと、「抑制」としておりました。これを「防止」というふうに変えました。

続きまして、その下の表です。まだ反映が済んでないんですけれども、各数値の表す項目が抜けております。これを次の修正時に修正をさせていただこうと思っております。申し訳ございません。

続きまして、６ページの下段でございます。高砂学について説明をするワードというような１つコマを設けておりますが、そこの一番下に人数が漏れておりました。延べ人数７，５７２人というものを追加いたしました。

次、７ページの中段、市立図書館整備の文章、「また同年に市立図書館が」というここの文章の見直しをしております。

その２段落下、この文章も表現を見直しております。

このページの２段落目ですね、「文化をつなぐ施策としては」以降なんですけれども、市指定文化財が「申義堂、旧入江家住宅」ということで列挙しておりますが、ここに「工楽邸」も入れてはどうかというご意見もいただいておりますので、今後反映について検討をしてまいります。

続きまして９ページでございます。

先ほど申し上げましたように、謡曲「高砂」について、委員、委員からご意見をいただいておりました。謡曲「高砂」そのものを広めていくこともちろんなんですが、その持つ意味を施策に反映し、その考えが広まるようにというようなご意見を受けまして、下段、「方針の改訂にあたり」以降につきまして、「及び」以降、「及びその包含する和合、長寿、安泰、祝い等特有のイメージとの調和」をというような文を追加をしております。

この章自体が現行方針の振り返りの章にはなるんですが、次への方針をということで、ここに明記をすることといたしました。

次、１６ページをお願いします。

前回の審議会時に、「地元を好きになってくれる人を」というようなお話もございました。それで、地元のどういうところがというところで、自由記述の回答でしたので、ここに「秋まつり」でありますとか「万灯祭」、「石の宝殿」や「高御位山」という言葉がやっぱり出てきていますので、ある一定、地元というところでは、その地元の誇りですとか、伝統として継続して捉えていただいているということが分かります。このグラフだけをもともとおつけしていたんですけれども、実際こういうものが誇りとして残っているということを明記するという意味で、この青い四角で囲ったもの、「秋まつり」「石の宝殿」「万灯祭」この部分を追加をいたしました。

次に１８ページでございます。

次の方針に向けた課題になるんですが、このあたりから、「つむぐ」ですとか「つながる」ですとか、そういった方針の理念を連想する表現を取り入れるようにいたしました。

課題１、３、４この３項目につきまして、「つむぐ」「つながる」という表現に変えて、文章の表現の見直しをいたしました。

課題２では、このたび感染症の拡大を受けまして、先ほど会長の話にもありましたけれども、文化活動、文化芸術活動が中断をやむなくされたことを受けまして、日常が変わってもある程度継続することができる文化芸術をという意味も含めまして、「日常のあらゆる状況においても」ということを課題の２に追加をいたしました。

また「高砂らしさを」ということも、前回ご意見でいただいておりましたので、課題５には「地域ブランドの開拓や啓発に努め」ということで一文の追加をいたしました。

次に２２ページ、２３ページでございます。

こちらの中段の少し上、視点ということで７項目挙げております。この一番下の７番に「新型コロナウイルス感染症への対応」というふうに従前しておりました。これを、「新型コロナウイルス感染症等への対応」「等」という言葉を１つ入れました。

この下の方針理念、ここについてまたご審議をいただかないといけないんですけれども、この方針理念が、そもそもこの言葉を選択した理由ですとか、あるいはその表すもの、示すものが分かりづらいというようなご意見を前回までにいただいておりました。併せまして、先にも申し上げましたが、方針の成果として「創造力の育成」というものを達成できるように、「創造」ですとか「創造力」を追加してはどうかというご意見をいただいておりました。そこで、事務局案、もともと我々がご提案していた「つむぎ　つながり　文化と育つまち　高砂」この上の四角で囲った文です。それに合わせまして、ご提案いただいた「つむぎ　つながり　つくりだす」「文化と創造が育つまち　高砂」というものを２つ案としてここにお示しをさせていただいております。このあたりどうしていくかということも、この場でご審議いただければと思っております。

委員の皆様から、２２ページのこの括弧「審議会意見」というふうにくくってあるんですけれども、「創造」「創造力」「活力のあるまちを生み出すための文化形成」ということですとか、あるいは「新たに創造する」とかそういったご意見をここに列挙させていただいております。

隣のページですが２３ページ、この方針理念を一言ずつに分けて、その示すところ、目指すところというのを解説するページを新たに設けております。

このような解説ページなんですけれども、この上位計画である高砂市総合計画にも同様のページがございますので、分かりやすくするには１つ有効かなと思いまして、今回追加をさせていただきました。

次に２４ページ以降ですが、主に方針理念「つむぎ」「つながる」この方針の理念と文言との連携による見直しをいたしました。

２４ページ基本目標１においては「つくります」というような表現に変えております。

２６ページ、２７ページですが、施策１に「つなげる」と「つくる」を使いまして、先にご説明した課題の見直しに伴いまして、①にはどんな状況でも文化が継続できればという意味で、「社会的状況など」というものを追加いたしました。

次に２７ページの施策３には「つくる、つなげる」で、施策４には「つくる」に表現を入れ替えております。

次、２８ページ、２９ページですが、こちらも同じ見直しでございます。施策２と３にも「つなげる」という言葉。施策４ですが、謡曲自体のみの啓発ではなく、謡曲を「多面的に」その意味合いを含めて啓発をしていきます、ＰＲをしていきますということで、この文言の追加をいたしました。

次に、３０ページ、３１ページ施策１、３、４に「つなぐ」「つながり」という言葉の追加をしております。

３２ページは特に変更はございません。

最後に３４ページ、推進体制の１行目、ここにも「つながり」ということで、その下の表の担い手で「教育機関」のところには、もともとここには「意識の醸成を」ということだけを記載していたのですが、そこにまた「創造性」ということを足して「創造性の高い文化意識を醸成すること」ということで、表現を少し加えております。

次、隣の３５ページの一番下、目指すところが方針理念ということになるんですけれども、ここが変わってくるかもしれないということで、着色の上お示しをしております。

本日ご審議いただく内容をもちまして、おおむねこの方針の本体に関しては、確定をしていきたいと考えております。この後はそれぞれの方針の方向性に基づいて実施計画の策定を進めてまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いします。

簡単ではございますが、説明は以上です。お願いいたします。

○会長

ありがとうございました。今、前回までのご意見とお答えできなかったところの部分の回答とか、その後、皆様から頂いたご意見あるいはご質問等につきましてのご回答、あるいはそれをどうやって盛り込んだのかというところでございます。

特に事務局としては、２２ページの方針理念というところです。多分、考え方としてはほぼ同じことを言ってるんですが、具体的にどういうふう、どういう文言をここに使うべきかというところで悩んでらっしゃる。高砂というところが比較的に歴史もしっかりしてあるものがあり、先ほど、伝統の話もしましたけども、伝統文化などもあって、そういったものをいわゆる基盤としてつながりが。ただ今後、かなりこの文化を育成していこうと思えば、「創造性」というものもあるんじゃないかと。

それから、これを教育や、あるいは産業といったところに考えていくと、「活性化」とか「育む」、いろんなキーワードが出てくるというのは、致し方ないところはあるんですけれども、どういうものをこれから重視して、そして何を残していくのか。あるいは使用していくのかというところが、少し事務局としては、その抱え

ているというか、少し委員の皆さんのご意見を聴きながら整理したいと、こういったところでございます。

これ以外にも、今日先ほど最後におっしゃっていただいたように、今日の議論をもってある程度の方向性ができれば、今度は個別事業の分野に入ってまいりますので、そこもまたいろいろ議論が出てくると思います。何とか今日、方針だけはある程度定めたいということでございますので、ご意見を賜りたいというふうに思います。

そうしましたら、ここからはもう、ある程度は自由で結構でございますので、できればですね、分かるようにページ番号だけは言っていただいた上でお話をしていただくと助かります。

では、どなたからでも結構ですので、挙手でのご発言をお願いします。

○委員

そうしましたら１８ページ、課題１のところですけど、変えていただいていますが、変更前が「市民が」となってたと思うのですが、変更後は「市民を」という形になっていますが、市民が自発的にというか、こういう「鑑賞」や「活動」や「参加」をしていきたいとか、そういうふうに持っていくのが大事かなと思うのですが、これでしたら市民を誘導というか、何かちょっと上から目線になっていると感じました。市民が主体的になって動くように持っていくことが大事なのではないかと思うので、そういう文章のほうがいいかなと思いました。

○事務局

はい。

○委員

はい、たくさんあるのですがいいですか。

○会長

どうぞ。ちょっとまず、議論する前に、まずちょっと挙げていただいたほうがいいと思いますのでよろしくお願いいたします。

○委員

はい。

それから、課題４。

「幅広い年齢層やニーズ」って、前も言いましたけど、英語というかニーズではなくて、例えば「要望」とかで、「年齢層の要望に対応する」というほうがいいのかなと思いました。

それと、その中身で２段目のところに「文化」で消してますが、その後ろの「施策を研究し」とあるのですが、「探求し」のほうがいいのかなと思います。

続いて、２２ページの審議会意見ということでいただいていますが、「創造」というのは大事なことなんですが「文化と創造が育つ」という、その「文化と創造」

というのが並列でここに挙げるべきものなのかというのも少し疑問に思っています。私からの提案としては、「つむぎ　つながり　文化と共に育つまち　高砂」で、２行目のところをなしか、「つむぎ　つながり　文化と共に未来をひらくまち　高砂」みたいなほうがいいかなと。これは、あくまでも意見です。

続きまして、２４ページ「つくります」というのに変えられているんですけど、まず基本目標のところに「つくります」で「機会をつくります」なので「機会をつくります」でされているのですが、施策１、２、３、４を見てみると、今までの「機会の充実を図ります」「充実を図ります」「充実を図ります」「充実を図ります」と、全て「充実を図ります」となっています。何故そう変えられたのかが整合性の点で分かりにくいのです。

逆に、上を「機会の充実を図ります」に変えたほうが、整合するんじゃないかなと思いました。

○事務局

はい。

○委員

それと、基本目標２の「文化芸術活動の活性化を応援します」とありますが、その下は「支援します」という形で書かれています。「応援します」と「支援します」の意味をインターネットで調べてみました。それが正解かどうか分かりませんが、「応援」というのは、誰かの助けとなる、うまくいくように祈るみたいな形で、何か少し心のほうだけで、「支援」は誰かに積極的な行動をするということでした。「支援」のほうが積極的な形なので、「応援します」ではなくて、「支援します」のほうがいいのかなと思いました。以上です。

○事務局

ありがとうございました。

○会長

ありがとうございました。２２ページのところ、ちょっと皆さんと議論したいので、できればそれ以外のところの言葉の問題について、まず事務局のお考えをお示しいただければと思います。

○事務局

はい。まず、１８ページの課題１なんですけれども、前回にお示ししていたものが「市民が自ら文化芸術活動に「鑑賞」「活動」「参加」に関わるためには、活動の情報を」以降割愛しますけれども、こういうような表現をしておりました。「つなぐ」「つむぐ」というその辺を入れていこうとしたところ、こういうような「が」を「を」に変えたほうがとか、そういう意図で変更したものですので、ここで「つながる」「つくりだす」という言葉を一度置いておいてということであれば、前回の表現に戻させていただこうかなと思います。「市民が自ら文化芸術活動に

「鑑賞」「活動」「参加」で関わるためには、活動の情報を広く効果的に提供し」後は一緒ですね。「行動の第一歩のきっかけを創出する」以前は「創出する」を「つくりだす」にしてるんですけど、分かりやすいのが「つくりだす」なのかなと思っていますので、その辺りで分かりやすくで主体性を持ったというような表現に、また戻そうかなと思います。

○会長

そこの「つなげる」は、「つながる」じゃ駄目なんですか。「つなげる」だったらば、市民が出てくると思うんです。「市民が自発的な」例えば、今さっきおっしゃったように、前は「市民が自ら高まる」だったんで。

○事務局

はい。

○会長

今度は「つなげる」にしたいから、「市民を」にしたと。答えが「つなげる」なら「市民を」が目的格になるので、そうすると、誰が主語になるか分からないので、誰がつなげるんですかということになります。「つながる」であれば、「市民が自発的な文化芸術活動の「鑑賞」「活動」「参加」につながるためには」というようなのでいいと思います。

○事務局

はい。

○会長

前の「かかわる」を「つなげる」にしたいから、「市民を」になりましたというと、確かに委員がおっしゃったように、じゃあ主語はということになりそうなので、これは市民が自らつながっていくんだっていうのであれば、「つながる」でもいいと思います。「つなげる」にこだわらず、そこも含めて考えてください。

○事務局

はい。

○委員

私も会長の案に賛同します。

○事務局

分かりました、ではそのように修正をいたします。

○会長

次、すみません。続けていただけますか。

○事務局

課題４、「ニーズ」に関しましては、「必要性」とか。

○会長

ほかにもありますね。

○委員

いろんな意味がありますね。

○会長

この基本方針の中に、ほかにも出てきますね。

○事務局

ちょっと今、すぐに分かるものがないんですけれども。

○会長

それとあともう一つ、ほかのこういう計画、高砂市の。

○事務局

はい。

○会長

そのとき、委員がおっしゃったように、いわゆるニーズっていろんな意味があるものなので、むしろこの場合は、もうちょっと当てはまるいいものがいいんじゃないかというのは分からなくもないんですが、言葉のチョイスとか、この辺りはいかがでしょう。

○事務局

申し訳ないです。今すぐにちょっとそれが分からないんですけれども、確認をいたします。

○会長

ですから、今、委員からは「要望」というふうにおっしゃいましたけど、「要望」だと今度は、その要望を出すか出さないかということ、「ニーズ」っていうのはね、潜在的なニーズというのがあって、要するに要望は出ないんだけども、でも持っている。この辺り、ちょっと実は言葉の使い方が「ニーズ」ほうがちょっと幅広いので、この辺りどちらがいいのかなというのは少し考えてもいいのかなと思いますのと、先ほど言ったように、ほかの市の施策だとか計画との整合性は必要かなと思いますので、その辺りは確認いただけたらと。

○事務局

分かりました。

○会長

委員としては、「要望」ということになると、やっぱり表面化されたものが。

○委員

いや、カタカナとかそういうので表現すると、何かどうにでも取れるような言葉になりそうなので、他の表現はないかと思いました。

「ニーズ」というのは、確かに言われたように潜在的とか、それから表面に表れている要望というか、そういうのとかいろいろあると思うのですが、いろんな意味

を調べる中で、カタカナというか英語というかを使わずに表現するのであれば、要望になるんかなと思っただけです。

○会長

分かりました、はい。

○委員

実際に置き換えるのはなかなか難しいなと思いました。「ニーズ」のほうが幅広いなと思ったのですが、できましたら日本語にしたいなと思って、提案してみました。

○会長

なるほど、ありがとうございます。

○事務局

ありがとうございます。

○委員

「ニーズ」は、それはそれでありだと思います。

○事務局

例えばなんですが、ちょっと今まだ準備できてないんですけど、巻末に用語集というようなものを添付するというのも、考えてはいます。

○会長

ワードって出てくるのは別にですね。

○事務局

はい、用語集です。この後、いろいろ片仮名のものが、「アウトリーチ」とか、「ハンディキャップ」、「シンボル」など、どの程度までをかみ砕いていくかにもよるんですけれども、説明がついたほうが分かりやすい言葉も出てくるのは実際のところですので、用語集のようなものを巻末につけていくというのも含めて検討させていただいてもよろしいでしょうか。

○会長

よろしいですか。

○委員

はい。

○事務局

はい。

○会長

では、できるだけ速やかにお願いします。

次は、研究と探求ですか。

○事務局

はい。

○委員

あの、私が言ったからって変えてもらわなくても、結構です。どちらがいいかということが大事なので。

○会長

いやいや、「研究」の意図と「探求」の意図、やっぱり若干イメージが違う。意図というか扱う人が違うので、「研究」は、ある種のちゃんとした手段を持ってアプローチ、要するにちゃんとした研究の方式方法を持って明らかにし、そしてそれらを人に発表していくというような。

「探求」というのは、必ずしも例えば発表を伴わない。「研究」は研究者の皆さんがある程度共通した研究方向でなけりゃ駄目なんですけれど、「探求」の場合は、ちょっと言い方が悪いんですけど、独自なやり方でもある程度探求しましたというのも言える。少しニュアンスの違いがあるので、だからむしろ事務局のほうのイメージが、委員がおっしゃった「探求」のほうに近いのであれば変えていただいたらいいし、いやいやこれでなければというのなら原案どおりでとういうことで委員がおっしゃったと思うので、そこら辺の内容を踏まえて言葉を選んでください。

○事務局

はい。ちょっと検討をさせていただきます。

２２ページは後のほうがよろしいですか。

○会長

２２ページはちょっと、皆さんのご意見も聴いてみたいと思います。

○事務局

２４ページの「充実を図ります」、もともと前回の資料では「機会の充実を」、この上の点の部分につきましても、「誰もが気軽に文化芸術を鑑賞し体験できるような機会の充実を図ります。」その下が、「楽しむ機会を創出します。」というような形にしていました。簡単な言葉に直しましたというのが、この「つくります」にした一番の理由ではあるんですけれども、ご指摘のとおり、施策１以降、４まで全て、「充実を図ります」、こちらもこちらで統一をしたという意図はあります。施策１から４までの述語の部分を「充実を図ります」というふうに前段階から統一をしていたというのがありますので、どちらをどちらに合わせていくかということなんですけれども。

○会長

もう一つは、その目標というのと施策って取扱い方が違っていて、目標は「つくる」ことが目標です。でも施策としては、施策というのは行政が執り行うことなので、行政が機会をつくるのか、それとも今ある例えば、いろいろ副会長がやっておられるようなことに支援するのも、機会を充実させることになります。つくるじゃないんですけどもというふうになってくると、施策としてはもしかしたらこれがい

いかもという、この辺りも実は、目標が、こういった機会をどんどん含めていってつくることなんだ。つまり、充実を図ることだけが目的じゃなくて、目標はもっともっとこんな企画、こんな機関が高砂市にあることなんだというのであれば、「つくる」というのはいい表現だと思いますし、そして施策としては、自身で、自らが施策的にやるのはなかなか難しいので、活動に対して補助を出しますよとか居場所を提供しますとか、こういう充実を図ることは１つの表現だろうと思います。統一することが正しいというわけではないと思いますので、そこら辺を捉え方もありますので。

○事務局

分かりました。

○会長

委員、いいですか。

○委員

はい、大丈夫です。

○事務局

それと、応援と支援ですね。はい。

○会長

これはどうですかね。

○事務局

それともちょっと難しいところなんですけれども基本目標２、これを「応援します」を広いところから絞っていったようなイメージなので、活性化をされることを本当にもう広くから応援していますというような意思を持ってこの「応援します」というのを一旦つけました。その下に、少しまた狭義的になって、活動の発展や継続を具体的に「支援します」という「支援」という言葉にちょっと狭く絞ったのが、この点以下です。実際に、施策としてどういうことをしていくかというふうに、少しずつ少しずつ狭めていったというような感覚ではつくったんですけれども、違和感と言えば違和感なので。

○会長

委員、お願いします。

○委員

「応援します」では単なるですよね。だから行政としてこの活性化、文化芸術活動、皆さんが活動なさっているほうに支援というのもお金だとか労力だとかいろいろありますよね。それの全てを持ち込んでいきますよというのであれば「支援」でしょう。

○委員

「応援」というのは、頑張れよというのも応援だし、実際に何か力を貸してあげるよという、こういう表現は悪いか分からないんですけど、そういうのが支援という言葉の中に入ってるように思うんです。

何か「応援」といったら、頑張れよ、やれよ、みたいな。

ちょっと意味合いが違うような気がします。

○委員

目標というふうに考えたときに、また施策と違うので、意味合い的には応援するのは後押しするということでしょ。

だからシンプルに、「活性化を後押しします」やったらベタ過ぎるんだけど、意味は分かりやすいので、目標を分かりやすくというのであれば、「文化芸術活動の活性化を後押しします（みせる・そだてる）」ってなって、後押しをどういうふうに具体的にやっていくのかということで、「活動の発展や継続を示し支援します」という具体的な施策が出てくると思います。

○委員

それやったらいいですね。

○委員

日本語で「後押し」って易しい言葉のほうがわかりやすいと思います。１つの意見です。

○事務局

はい、ありがとうございます。

○会長

ありがとうございます。委員何かございますか。

○委員

はい。

今はインターネットですぐ調べられるので、「支援」「応援」こういうふうに指摘いただいているからこそ、そういうところを見ようかというので調べたら、「応援」というのはどっちかと言えば、先程述べたように頑張れよ見たいな意味が多く載っていました。「支援」というのは、本当に考えて、ある程度物資も精神的な面と両方伴ってするよう意味になると載っていたので、親身になるのは「支援」かなと思いました。「後押し」が意味的に良いということであれば、「後押し」でいいと思います。

○事務局

はい。

○会長

その辺も含めて、言葉というのは意外に大事なところもあるので、お願いをいたします。

○事務局

はい、ありがとうございます。

○会長

ありがとうございました。２２ページのところは大事なところなので、後でまた議論をしたいと思うので、別途ですね。

○事務局

お願いいたします。

○会長

それまでにちょっとほかの部分を含めて意見を聴きたいと思いますが、ほかの方でお気づきの点とか、修正、それらのご質問でもいいかと思いますので。

○副会長

先ほど、「ニーズ」という言葉があったんですけども、「ニーズ」なんかやったら、日常的に我々も使うんやけど、「アウトリーチ」なんか皆さんどうなんでしょうね。あんまり聞き慣れないような感じはしますよね。

○事務局

はい。

○会長

そこら辺は馴染みのない言葉かもしれないですね。

○副会長

はい。「ニーズ」が例えば２４ページの施策１のところに出てきている、また違うところに出てきてましたけれども。

○事務局

はい。

○副会長

もしそれで整合性のためやったら別に合わせることないと思いますが。

○会長

ありがとうございます。はい、ほかに何かご意見ありますか。

○委員

委員は文章のほうで言われたんですけれど、７ページなんかのところに写真が入ってるんですね。高砂市美術展、いけばな展、交流ウオーキング、それで、高砂市美術展のこれ何だろうと思いました。美術協会ですからね、これでは高砂市美術展が活発にされてて、すごいいい印象だなんて誰も思わないですね。ですから、いけばな展のような写真の撮り方してください。そうすると、これもっと生きます。

それからですね、その次の８ページ、小学校給食なんですが、「地元で育った食材や地域の特産品を取り入れました」とありますが、これでどこに特産品があるって分かりますか。ですからやはり、そういう写真を入れるときは、特産品がちゃんと見えるような食べ物に調理されている写真を入れるとか。

これは、大事だと思いますよ。どこに特産品を使ってるんやって、これ絶対思いますから。そこら辺のところもちょっと写真のほうのまずさかなと思ったんですが。

○会長

ありがとうございました。写真は確かに、もしかしたらイメージを特定するかもしれないという意味ではおっしゃるとおりです。ありがとうございました。

○副会長

この小学校の給食にですね、特産品が入ってるということ大事ですね。

○委員

大事ですね。だから実際写真を見て、ちゃんとああいう感じのものを調理してるんだなというのが分かるほうがいいですよね。

○副会長

はい。

○会長

先ほど、美術展なんかの写真で、委員は美術協会ですので、途中でまたもし確認したければ、ちょっと個別に確認していただくとか、それぞれの団体さんに必要な場合は確認を取らせますけど、こういうのがいいのかどうかとか。もうちょっといけばなをポンと出しておくのがいいのかなとか、そういうのが分かりませんから、ちょっとそこら辺は、美術「展」や、いけばな「展」なので、恐らく展覧とかしているイメージ、印象強くなっていると思いますけれども、やっぱり共同施設の例えば人数、こんなに人が来てないねとか思われてしまうと逆効果になるかもしれないという、こういうことも分からなくはないので、ちょっとそこら辺ももう少しご検討いただけますか。

○事務局

美術展の写真なんですけれども、一応、原則美術展では写真撮影を禁止しています。写真の盗作であるとか、そういった問題にも派生してきますので、それは、美術協会のほうにさせてもらっているところなんですけど。

○委員

美術協会の会長も一緒の意見ですから。

○事務局

なかなかこう、寄った写真となると、その作品の作者等もあるので、美術展はこういうのですという、上から俯瞰的に撮ったものをここに使ったというところです。

○委員

多分そうだろうなとは思った。

○委員

分かるけれども。やはりまずいなと思います。

○事務局

ちょっと違う写真で、また調整をさせていただきます。

○委員

うん、探してみてください。

これやっぱり上から撮ると、パネルばっかしが見えて何やろという雰囲気ですよね。

○会長

個別に検討していただければと思います。

○委員

事務局の方で検討してもらえばいいと思います。

○委員

そう思います。

○委員

そうだと思います。

○会長

ちょっと写真のチョイスについて、少し注意してくださいということなのでよろしくお願いします。

○事務局

はい、承知しました。

ありがとうございます。

○会長

はい、ほかいかがでしょうか。皆さんが見る冊子ですから、そういった視点でご指摘いただいたほうが今回ありがたいと思います。ほかいかがでしょうか。

○副会長

写真について申し訳ないですけど、８ページの一番下の万灯祭、すごい能舞台が目立ってるんやけどね、もうちょっと万灯祭のその芸術性のある写真があるはずやと思うんですけど。

○事務局

はい。

○会長

ほかいかがでしょうか。いろいろと見る人の立場でいろんな意見をいただけるとありがたいと思うんですが。

○委員

もう一回すみません、いいでしょうか。

○会長

はいどうぞ。

○委員

このアンケート概要の１０ページなんですけれども、何か回答者の属性というとこが最も多いのは７０歳代、でも実際にしたのは１８歳以上の市民さん無作為抽出。

○会長

そうですね、ええ。

○委員

ですからね、やはり各３０人ぐらいずつ分けていきながら、そのもうちょっと若い人たちも意見が入るように持っていけるような無作為抽出のやり方というのも、１回検討していただけたらうれしいなと思うんですよ。

これ何でかといいますとね、今後の本市の文化芸術に対するニーズ等について調査したいんだと、７０歳以上のおばちゃんばっかしの意見が多かってもね、何もならへんでしょ。だから、調査の対象者をどのように選んでいくか。これは大事なことになってくるんじゃないでしょうかね、これから。

○会長

おっしゃるとおりだと思います。層別無作為抽出法みたいな形で、ある程度コントロールすることは難しくありません。今回、例えばこれは市の今の年齢構成と若干ずれているということ。実際には、まあもちろん、高齢化が進んでますけど、半数以上が高齢者というわけじゃありませんので高砂市の場合は、実際にはちょっとだけ高齢者のほうが多いので、ですからそういう意味ではそれをコントロールするために、あえて層別無作為抽出のときに、例えば、一般的に男性で、かつ年齢の若い人の回答って低いんですね。だからそこをあらかじめ多めに無作為、層別抽出をするということはできなくはないんです。そういうやり方は難しくはないです。それによって、得られた回答者が大体市の年齢構成と近いような形にするほうが難しくはない。という重みづけをして層別、無作為抽出するやり方はないことはないです。

○委員

この有効回答率が３９％ですよね。

○会長

それはね、難しいところで、できれば５割欲しかったんですね。

○委員

３９％ぐらいの回答率で、調査結果、これどうなんだろうな。そんなんで載せていくということはどうなんだろうなと思うんですよ。

○会長

３００件以上ありますので、高砂市の人口規模から考えると２００件か３００件あれば、いわゆる間違う確率は５％未満ということです。統計的な意味で。

○委員

すみません、話の内容がちょっと私は理解できないのですが。

○会長

３００件という数が少ないわけじゃないということです。

○委員

そうですね、これぐらいの数。

○会長

おっしゃったように、多ければ多いほど正確性は高くなるんですけれども、じゃあ例えば、高砂市民の何％、何人ぐらい取れば、その高砂市民の意見をある程度反映できてますかという意味でいくと、３００件というのは決して少ない数ではありません。あくまでも統計的な話です。

ただ、正直な話を言うと、公の組織が採るアンケートは、４割を超えることが普通で、今回実は５割は欲しかったなあというのが本音です。

○委員

ですよね、これぐらいの数字で判断できるのかと、そう思います。

○会長

傾向的に言うと、例えば、福祉とか、そういうものはまたちょっと低かったりすることがあったりとか、それから今回、アンケートの調査項目があまりにも多くて、ちょっと答えるのが大変だったかなというのもあります。だから、僕は調査をずっとやってきた人間なので、もろもろのことを考えると、３９％は頑張ったほうだと思うんですけども、本来であれば４割超えてほしいし、できれば５割欲しかったというのは本音です。

委員がおっしゃった、統計的にこれは意味があるんですかというのは、３００件は十分意味があるということです。

○委員

意味があると考えていいのですね。

○会長

ありがとうございます。これを載せるか載せないかというご意見なんですけどもどうでしょうか。事務局からお願いします。

○事務局

はい、このアンケート結果なんですけれども、市議会のほうにも報告しておる内容にもなりますので、これについては載せていきたいなというふうには思っております。

○会長

そういうことです。

○副会長

先ほど会長が言われたように、若い人の意見を属性に挙げたり、抽出の仕方で出てくるのですけれども、このアンケートはこの形でよろしいですか。

○会長

先ほど言ったように層別抽出で調整することはできるんですけども、どちらがいいのかというのは、調査設計時における判断ですので、最終的な属性が高砂市のいわゆる年齢構成と同じようにしてくださいというものであれば、そのやり方でやります。そうではなく、無作為で、そのほうが必要なんですというときは、無作為でやります。だから、今回については無作為です。

○委員

今回はこれでいいじゃないですか。先のときにまた年齢を考えるとかしていってもいいかなと思います。

○会長

ありがとうございます。ほかいかがでしょうか。まだご意見いただいてない方からお願いします。

○委員

私もこの件に関して、お伺いしたいなと思ってたんですね。

○会長

そうですか、はい。

○委員

それこそ１，０００人という感じもそうですし、７０歳代の高齢者と言われる方々で、高砂市を文化的なまちだと感じないというふうに考える方が多い。でもそんな年齢別に大きな差はありませんでした。そのやっぱり、若い人の意見というのは出ていない。ほとんど分からないような感じを受けるんですよね。高齢者の方々のご意見でアンケートを決定されているような感じになる。高砂市の意見として出ているような感じがするので、このアンケートは載せる意味があるのかどうかなと。何か未来に向かっていくものだと思うんですけどこれね。もうちょっと未来に向かって前進的なものだったらいいなと思うんですけれど。

○会長

今回やっぱり目的の問題だと思うんですよね。それで例えば、委員がおっしゃったように未来に向かっての高砂という風にするのであれば、今度はこれもほかのところでもやっていることなんですけど、例えば、高校生と中学生とかと言うように逆に対象を絞ってしまって調査をするという方法もあります。

今回はそうでなくって、やはり全市民にアンケートということです。ちなみに言うと、この「文化的なまちを感じるか」というので、前回の調査と今回の調査であまり変わってないんですよ。だからそちらが実は問題が大きくて、正直なところを言うと。

○委員

高砂にお住まいの方のほぼ全員の声を聞いたわけじゃないですけど、ただただ変わらないよねと、変わってないよねという意見がまあ多い。全然、いつまでたっても変わらないよねって。だから関心がもう無くなってるような感じがするんですよね。

○会長

なるほど。

○委員

それで一生懸命にこうなんだ、そうなんだというふうなことを、高齢者の意見として書いて、どうなんかな。

○事務局

よろしいでしょうか。

○会長

はいどうぞ。

○事務局

はい、アンケートの結果は、実際今おっしゃっているとおりです。比較的年齢が上の方がお答えをされて、それに基づいて、それを分析して、計画を立てていくというような格好でつくりはなっているんですけれども、それ自体の問題視をしています。次の方針では。といいますのも、２４ページの基本目標１になるんですけれども、ここには「若年世代の活動拠点において、文化芸術に触れる機会の充実を図ります。」ですとか、子ども世代、若者世代ですね。結局、その方々に知ってもらわないことには、何も進まないというところを問題視しましたので、基本目標１に、施策として今回は挙げている。若者世代をターゲットにしていきますっていうことを挙げて、その年配の方ばっかりが文化をされるというイメージを払拭するというところに着眼をしていこうかなというふうに思っております。

ちょっと資料前後するんですが、２ページなんですけれども、対象とする文化芸術の範囲ということで、ここには今回、特には誤植以外は手入れをしていないんですけれども、これが法に定めるところの文化の範囲ということなので、これを見ていただくとアニメーション、コンピュータですとか、出版物、レコード等もございます。漫談、漫才、歌唱、この辺の芸能も含むということで、文化であるという認識なく文化に携わっておられる若者の方というのは、潜在数、相当数おられると思うんです。その辺も文化ですよというようなことをどう発信していけばいいのか。

それで市全体の施策の中に、そういったものがどれぐらい潜んでいるんかということをこれから実施計画の中で考えていって、実はそれが、もう文化に携わっているんやというようなことを気づいていただくというようなことを次の１０年間でしていけたらというふうに思っております。そしたら少し、認識も変わってくるのかなと。

○委員

それでね、その年齢でそのアンケートを無作為ということですけど、年齢的に結構平均的には取られているんですよね。この年代だけを多くという、そんなことはないわけですよね。

○事務局

ではないです。はい。

○委員

その結果、集めた結果ですね。若い人たちからの返答が少なかったということに対しては、どう捉えていらっしゃるんでしょうか。

○事務局

前回も申し上げたとおりなんですけれども、やっぱり文化というものは、聞くだけでは一つ敷居が高い。そこにまた芸術とかとなると、美術館に行かないといけないとか、博物館に行くことが文化なのか、やっぱり若い方には浸透していない。その文化というものが、少し一段高いもののように捉えられているというふうな結果なのかなと私個人の意見でございますが。

○委員

私はそうは思わない。逆だと思うんですよね。そういう文化って高いものじゃなくって、自分たちが、言うたらもちろん「高砂」謡曲とかあったりしてるのも、それは本当にいいことだと思いますし、どんどんやっていただきたいんですけど、若者たちが生きている今の時代ですね。どんどんスピードが速くて、どんどん新しいものができてくる、スマホにしたってそうですけど。そういう若者の本当に文化というものはものすごいエネルギーがあるんだけど、そこら辺が高砂では感じられない。その自分たちは自分たちで文化やと思ってると思うんですよ、若者たちは。その芸術的に高いものだけが文化と思ってなく、そんな感覚ではないと思うんですね。

○委員

若者文化をターゲットにしていきたいとおっしゃってると、だからそうするためには、２ページの基本の文化芸術の範囲はこれだけですといろいろありますでしょ。そうするとやはり、このアンケートを採るときのやり方というのが、すごい大事になってくるよと。若い人の意見が全然入ってないでしょ。だから、若い人の意見を入れながら、それを市が参考にしていくのであれば、ここのところのアンケートのターゲットをどうして絞っていくかというところは、会長が大体説明してください

ました。だから、その方向もあるから、次回からはね、今回はこれでいいじゃない。次回からは、ちょっと変えながら、委員の意見を取り入れながら、変えていっていただけたら、若い人の意見も入ってくるでしょう。

○事務局

はい。

○委員

そうすると、かなり高砂市を変えていくことができる可能性も大ですよね。

○委員

そうですね、今回のアンケートはこんなんでしたよと。結果こんなんでしたよと。集まった数もこんなんでしたよと。

○副会長

実際に今回のアンケートをもとにして、また今、事務局が言われたように、じゃあ若者に高砂市のこれからの１０年間の提案をされるということであるんやけどね。

○事務局

はい。

○委員

あの、アンケートの中にね「文化芸術」という言葉がやたら出てくるんですけどね、さっきの敷居が高いとかの話が出たんですけど、この２ページの文化芸術の範囲というところを見ると、これもそうなのかなという、この時点では分かるんですけどね、文化芸術の鑑賞回数がどうのとかいうふうな、文化芸術という言葉だけ出てくるじゃない。僕らは美術館に行くのを博物館に行くのをそんなに抵抗ないです。だから、委員がね、コンサートに行くのと同じようなもので。だから僕ら、そういうの全然抵抗ないんですけども、１回自分の学校で、どれぐらい美術館に行ったんだろうって昔の話ですけれどもアンケートを採ったことがあるんです。むちゃくちゃ少なかったんです。まあ高砂というのは近くの美術館でどこにあるっていうの、それぐらいも知らない。よく知ってるのが姫路の美術館に行きましたとか、姫路の博物館に行きましたとかというぐらいの程度だったんです。その程度なんでね、何かすごく、美術館に行きましょうと言ったら、何か難しいところへ行って、難しいものを見せられて、何か逆に苦しめられると言ったら変なんだけど、何かその拷問に遭いそうなイメージを持っている人もいるんでね。何か文化芸術って何かもっと委員、何かいい言葉ないですか。表現として。

○委員

文化論になってしまうんでややこしくなるんですけど、若者はサブカルチャーを中心に好んでいて、サブカルチャーというのは、例えば片仮名でのマンガです。コミックマーケットとか、コミケに参加するとかというところで、我々が考える文化芸術とは違う派流をやってるんですけど、今、日本が世界的に注目されているのが

アニメであったりマンガであったりするじゃないですか。だから、若者がやっているサブカルチャーが主流になっている。メインストリームになってくるというのがここ数年のことなんです。それで、その辺のことを考えると、文化芸術という範囲で囲ってる自体も大人の感覚なんで、なかなかこのアンケートにそぐわなくなってくるので、好きなマンガや今のゲームの中の感覚とか、そういうものを取り入れて聞いていったら、ゲームクリエイターになりたいとかそういうラインで子どもの文化とか若者の文化がどんどんどんどん盛んになってくるので、その乖離があるんですよ、そもそも。そうであっても文化伝統はつないでいかなければいけないし、新しい若者世代の文化が常にあるわけなんで、この辺が上手にミックスされていかなあかんというところを多分考えてはる。だから、それに回答するのがどうしても堅苦しい文言になるので、ある一定の常識や知識を持った、ある年齢層が回答しにくるので、例えば、いろんなアニメーションとかゲームの世界の中で、ＱＲコードを読み取ったものをネット上でアンケート、ボタンを押して、それを集約して若者のアンケートをつくるのと、大人世代に聞いたのと、次はそういう展開がないと、幅広く救えなくなるのかなと、片仮名がちょっとあかんという意見もあるんですが、文化をカルチャーと置き換えただけで、大分若者に近くなるので。そりゃ、文化芸術と、アートアンドカルチャーの世界がもうひずんでいるので、そもそも。でも、その中であっても、結婚式の様式で高砂を謡う伝統があるので、そこらを高砂がどうつないでいくのかということが、この場で問われているのかなと思うんで、別々のターゲットに別々にアンケートしていって、それを高砂市が１つの場に集約していくという行状が求められているのではないかと思います。乖離したものを乖離した状態でつなげようとしても無理なんで、離れた状態でアンケートを採って、上手に１つの場に引っ張り込んでくるというようなことが、今後大事になってくるのかなと思っています。

○会長

アンケートは採ってしまったのと、それから今後のアンケートの採り方として、先ほど委員から説明があったようにオンラインのアンケートというのは今は主流ですから、大学もオンラインでアンケートを採ります。実は、そのオンラインでのアンケートのさっきの研究手法としてどうなのかというのは、十分な議論ができてない。本来は、コレクションごとにどんどんこういう会議をやってもらいたいところですけども、まだできてないんですが、だんだんノウハウが確立されつつあって、いわゆる脆弱性というのをどこまでちゃんとできるかというような研究が進んでいるところですので、ある程度、委員がおっしゃったようなことはできると思います。

もう一つの点が、アンケートではなくて、先ほど委員がおっしゃっていただいた、若者世代の文化、先ほど言ったサブカルチャーにしても、問題の１つは先ほどおっしゃったこと、法律の用語、つまり国の政策の中に、実は国の政策や法律があって、

これを踏まえての県の施策方針が市の方針に影響を与えるので、なかなか踏み外せない。例えば、若者文化の中で、特に漫画とかアニメなどでの二次創作、特にサブカルというのは著作権に触れるかもしれないというような、このパロディ論争というのは、これもずっと古くからやってはいるんですけども、結構大きな問題になるので、漫画のキャラクターをそのまま使ってもそれを容認する作家さんもいるんです。それからあるいは、オンラインなんかでやっている本当に普通の人が作家になろうみたいな、ああいうオンラインのもの。それから、まあ漫画村みたいな違法のようなもの。結局は、文化をこうきちっと決めなくなっているのは確かです。私たちの生活の中にあるのは。そういったものは確かにあって、じゃあそれを全部、行政で把握して、例えば支援できますかというと、なかなか難しいところだということもあるので、先ほど、事務局がおっしゃった若者のところはここですよというところ。例えば基本目標１の施策３は子ども、若者世代が文化芸術に触れる機会の充実。これは先ほど事務局がおっしゃったような、博物館とか美術館的なものなのかもしれないんですけれども、例えば、謡曲「高砂」は若者も結婚式に謡うよという、こういうのは非常にいいと思うんですね。それと同時に併せて、先ほど、例えばじゃあ若者特有の、例えば、アニメを今つくっている宮崎駿とか庵野さんとかって、庵野さんは６０代だし、宮崎先生はもう７０才を超えていらっしゃる。それはいずれやっぱり次の世代の人たちというのは、やっぱり４０代ですね。それで、そんな人たちが社会に出ていく、認知されていく輪が広がっていくということを考えると、その単なる若者ではもちろんないです。ただ、彼らが例えば、どこで、庵野さんなんかだったら大阪芸大生の時点で、自分たちで映画をつくっているし、一つは庵野さんというのはいわゆるどこで刺激を受けていて、作品が作られたかというところはもしかしたら、高砂市はやってみたら面白いかもしれないとは思います。というのは、それだけ文化的背景があるか、どんな役者さんでも恐らく作家性を発揮するときに履き違えたところというのは、実は若いときにこういうものは影響受けているものがあるので、そういうものがこの施策に生かせると面白いかも。

○事務局

はい。

○会長

アンケートは、もう一回採ることはなかなかできないので、それは置いといて、今日皆さん出た意見、つまり若い人を取り込もうよというのは大事なところなので、じゃあ何を施策に入れていこうかということをちょっともう少し考えていただいてもいいかなと思います。

これは、個別計画のほうで議論したらいいですか、それとも施策の中に。

○事務局

個別計画のほうで。

○会長

個別計画のほうで、はい。

○事務局

お願いします。

○会長

だから、そのことをちょっとまた考えていただきたいと思います。皆さんおっしゃったように、若い人たちをもっと取り込もうよと。若い人たちの作家性を生かそうと、高砂で生まれた何かすごい芸術家がいるよというか、サブカルの名手がいるよとかいうのを面白いよねというようなご意見も、もし多く出れば、そういったことは施策に取り入れるだろうと思います。

○事務局

はい。

○委員

いいですか。

○会長

はい。

○委員

歌舞伎と能とは一緒にできないと思います。

○会長

なるほど。

○委員

歌舞伎は、時代、時代で、人気のあるものをどんどん取り入れて変化していっていいものだろうし。今、初音ミクというんですかね、踊る映像、逆にあれを利用して歌舞伎をつくっていって、若い人なんかに非常にね、人気で。それを伝統芸能をなさっている能の分野に持ち込んでいいのかどうか分からないんだけど、例えば、尉と姥の人形が映像で出てくるというふうな感じでやるとかゲーム感覚にするとかね。そういうふうな扱い方をすると、また全然、その能というものとは違う、若い人たちの取組と参加、また実際に自分で何か扱えるような遊びの中で、伝統芸能とか自分の土地を知っていくみたいなね。そのようなことをすると、また違ってくるかなと思ったりもしてるんですけど、もう時代と共に変わらないとしょうがないことはしょうがないと思うんですよね。

○会長

先ほどの例えば、メディアの多様性といったようなところを言ったんですけど、それは別に伝統芸能を含めて、まあコロナによって１つ大きく変わったのは、伝統芸能についてオンラインで、今までだったら舞台に行かなければ駄目でしょうと言っていたものが、いやいや実はオンラインでも可能であろうと。

それから、歌舞伎って本当にすごいなと思うのは、新しいものを立ち上げていますよね。びっくりするぐらい、伝統とだけじゃなくて。

○事務局

はい。

○副会長

基本方針の３５ページなんですけれどね、基本目標１、２、３、４の、１番目の「文化に親しむ機会をつくります」の４番目に「謡曲「高砂」に触れる機会の充実」ということで、具体的な感じやけどね。１番目のところは、先ほど事務局も言われたように、文化芸術の中にメディア芸術のね、あるということなんやけども。

○事務局

はい。

○副会長

これ、全体のにおいみたいなものが、なかなかこの中では認められてないような感じにどうしても感じてしまうんやけど。本当にその高砂における謡曲「高砂」に触れる機会が充実する、そのためには文化芸術を鑑賞する機会、メディア芸術も含めてね、そういうのがあったときに、その両輪みないなところで初めてこの謡曲「高砂」なんかはね、逆に大事なものだという、逆に認められていくようなところがあるかなと思います。

○委員

コロナのこういう状況になって、今年は簡単に自分らの展覧会も開かれたり、会期が長くなったりというそういう状態。うちの会を例にとって、一昨年はできなかった。去年は会期は半分だった。今年は、何とか全部できましたね。そういうのをやっていく中で感じたことなんですけども、コロナで非常にうちから出にくい状態にも関わらず、観覧者が多いんですよ。これは、美術協会の場合もね、市展の場合もそうだと思うんですけど、逆にそのコロナの現状の中で、作品を見ることで何か生きる力、大きな言い方をすれば、それをもらいたい、そういう芸術作品の持っている力を再認識してもらうことができたのではないかなというような手応えは感じられました。この状態でも来てくださるのかという。すごく、じっくりと鑑賞をされているのを見まして、それを再認識された方は多い。何か再認識していただく場になったのではないかなという、それは、僕らとしても感じておるんですけどね。

○副会長

音楽の場でもそうですね。

○委員

そうですね、だから、病気になったら健康のありがたさが分かるし、こういう時代や戦争があると、平和であることはありがたいと思うし。本当にコロナ禍で、何

かうじうじしているところで音楽会に来てくれた方から、非常に元気になったというご意見いただいてますしね。非常に大事なことだと思いますね。

○会長

皆さんのおっしゃるとおり、先ほど、岡部さんの話もしましたけど、ネガティブにしてしまうと、やはりよくないと。それで、文化芸術というのは非常にポジティブな場を持ってますので、そういったものはコロナに打ち勝つという意味では非常に重要な案件かと思います。

ちょっと時間も限られていますので、もしこれ以上ほかのご意見がなければ、先ほどちょっと言い残しました２２ページの基本理念のほうに行かせていただきたいと思うのですが、今提案されているのは「つむぎ　つながり　文化と育つまち　高砂」ですかね。あと、「創造」という言葉がうまく入らないかなというようなご意見。

○事務局

はい。

○会長

それで、委員からは「文化と創造をつむぐ」という、文化をつむぐは分かりますけど、創造をつむぐとはあまり言わないのでと、こういったご意見がありました。

○事務局

はい。

○会長

ちょっとこの辺り、何かご意見を賜りたいと思います。いかがでしょうか。

「つむぎ　つながり」というのは残したいわけですね。言葉としては。

○事務局

できれば、はい。

○会長

「つくる」と「創造」という言葉を入れるというのは。

○事務局

はい。

○会長

この辺り、いかがでしょうか。

○委員

私が提案させてもらったやつなんですけども。あの今、総括的な話になるんですけれども、コロナの前と後で文化の継承の創造も大分変わってきていると思うんです。これから若い世代に、高砂の文化の発展をつないでいくためには、コロナ禍以降の在り方というのは考えていく必要があるということ、そこが一番強く思ってて、ですからいろんなことがコロナによって変わってきてます。アンケートの採り方も

ＱＲコードを読み込んでタブレットで返していくといういろんなことが変わっていく中で、以前お話しした音楽会のやり方が小学校で変わったという話をさせていただいたんですが、親が見たいのでどうしてもやってほしいという中で、ＰＴＡが１年から６年まで一気に会してすることができないので、学年ごとに席を用意して、入れ替えて消毒して、見手が場をつくったという話をしたと思うんですよ。だからそれは、文化の受け手が新しいその文化の発信を求めて場をつくっていくようなことが、コロナの後にあるのではないかと。そうなってきたときに、文化を継承していくことと、受け手が何か文化を受ける形になるようにつくり出していくこと。文化の創出と文化の継承がミックスしながらコロナ以降では発展していくのではないかと考えたときに、どうしても「つくりだす」という言葉を入れたかったなという、新たに受け手がつくりだしていくということも含めて言いたかったと感じる。それで、先ほどの話に戻るんですが、カルチャーの中で、高砂市がこの間、ニュースに出ててびっくりしたんですけど、匠工芸という、プラスチックの看板屋さんが、ゲームの中の実際のアイテムをプラスチックにして展示しているのが、すごく世界的に受け入れられているというのも、高砂発信で、あまり知られてないんですが、結構そういうマニアの方にはすごい受けているというようなこともあります。それって、自然と高砂の何かをすごい発信してるやんという、そこをキャッチして返していって、そういう場でつなげてすれば、高砂の中がもっと活性化するのかなと思ったり、そういう感覚って継承とつくりだすのはざまで起きてるなと。ですから、「つくりだす」という言葉を入れたかったんです。

それと、「文化の継承」と「文化の創造」は、やっぱり絡まりながら行われているので、相反することは確かに委員がおっしゃるとおり、「文化と創造が育つまち高砂」は、入れ過ぎで盛り込み過ぎやなとは思うので、ですが提案としては、割と多めに「つくりだす」と「創造」を入れて提案させてもらいました。

この右側の２３ページを見ると、よく考えていただいているなと思うんですが、それぞれ「つくりだす」の中に「文化芸術意識の醸成により創造力を育み」とかいう文言。「自らが創り出す力をもつ市民が増えることにより、活力あるまちを創ることをめざします」という内容であったり、「文化と創造が育つまち」というのは、やっぱり「文化の発展とともに、個々の創造力を伸ばし、積極的な創造が新たな文化を形成し、ひいては幸福感を生み出す」すごくいい文言が出てきているんで、これ２３ページは残してほしいなというのが個人的な思いで。

○事務局

ありがとうございます。

○委員

それで、２３ページを残すというベースで、この市の方針理念の言葉をタイトにしてもええと思うんです。そこらで議論していただいてお話ができたらありがたいなと思います。

○会長

ありがとうございます。まず、「つくりだす」という意味のことについて、まず誰からもとりつきやすいということです。まあ、ちょっと盛り込み過ぎだなというふうなご意見が出てきているんですけれども、サブタイトルをどう使うかというのも１つの方法だと思いますので、そういうことも含めてご意見いただけますでしょうか。

この「つくりだす」という言葉を仮に入れる場合はやっぱり「創造」ですよね。

○事務局

はい。

○会長

それで、先ほどの議論の中で、例えば結構「つむぐ」とか「つなげる」というのは意識されて基本のところに書いてあるんですが、「創造」に関する部分は基本目標のところにどういうところに入っている。

○事務局

創造。

○会長

新たな文化をつくったり、先ほどあえて文化の持っているイノベーションみたいな形で、いろんなものと組み合わせながら発信していく、匠工芸さんがまさにコスプレ文化ってアニメと漫画とある種の文化の融合なんで、それを実際に経験してる、その中でああいうアイテムとなってきて、だから、匠工芸さんて知る人ぞ知る会社だと、実を言うと。

○事務局

はい。

○事務局

必ずしも関連するかどうか分からないんですけど、２７ページの基本目標１、施策３辺りに、「つくりだす」というのは、最終目標としてつくりだす。創造できる人間が育つというようなところも含めて、それの基盤として子ども、若者世代が文化芸術を知って触れる。これが文化だ、これも芸術だというのを知る、触れるという体験というところで、つながるところと言えばこの辺りかなとは思うんですが。

○会長

もしかしたら、基本目標４は、どんな場面でも、例えば、１番は機会をつくっている方々に先ほどの継承なども通しながら新しい文化を伝えますよとおっしゃった

ような、そこは多分あるでしょうし、３番も、もしかしたらここに関わるかもしれません。あるいは４番は、伝える中で新しいものを伝えていきますとか。

○事務局

はい。

○会長

あるいは、そこで触れることで新しい活動の発展、これさっきの匠工芸やつは、実は文化的な意味があるのでということ。

はい、すみません。あと何か、ご意見をいただけますでしょうか。どうぞ、委員いいですか。

○委員

はっきり言いまして、とんでもない場所に私はいるんだなというのを感じてます。というのは、そういう文化事業に加わっているわけでもないし、芸術的な活動もやってません。単に自治会目線で、本当に日常の高砂市、その中の北浜町の自治会長としてやっております。だから、この会に出るときにいつも、ちらっと今日の予定はどんなんかなと思ってるんですけど、かなりレベルが高いというのは確かだと思うんですよ。こういう会話を日常、町の中でする人がいるんでしょうかと思います。それがアンケートの結果だと思います。実際ね。

○会長

なるほど。

○委員

だから、あれって現実だと思います。それで、私先ほど言いましたように自治会目線で町民と共に、日々悩んだりとか笑ったりして暮らしております。私自身、古希を迎えまして、昨日同窓会をやってたんですけどね。コロナ禍でもやりました。我々の戦後しばらくして生まれた世代は、お気楽な高度成長期、我々の青春時代を送ったりしてるんで、わりかし楽観的で人生を送ってきました。

皆さんのおっしゃる意見、それぞれいい意見おっしゃってるし、だけど自治会の中での町民の意見として、皆さんの発言を聞いてて、それ違うやろとか、いやそれええなとか、それはちょっと現実離れしているなとか、いうようなことを感じて、そのときには発言したいんですけど、今終わりになって総論みたいなところで何かと言われて私、まとめてよう言わんのです。

ただ、高砂市において、文化芸術、先ほどもおっしゃってんですけど、本当に文化というのをどういうとらえ方をしてるのか、何が文化なのか。私は結構古い人間なので、今の文化が嫌いです。今の文化というのは若者文化。若者に迎合したような、この世の中の進め方、これはやっぱりあるところでコンピューターというのが一般生活に入り込んできたと。その影響がすごい大きいと思います。それと少子化による核家族、子ども一人一人を大事にし過ぎ、よく言われる昔あった隣の家のお

っちゃんが頭をたたいてたでとか、こういうことがなくなってきて子どもが叱られずに大きくなってきた。その親自体が過去の長い歴史のある文化にいそしまなくなっている。その親が育てる子どもが、今の中学生、高校生かと。もう全然昔の昭和の子ども、戦争がいいとか悪いとかじゃないけど、戦争を体験した日本というのは、私はものすごい貴重な国やと思っています。それでそのときに、やっぱりまだ、アナログでずっと来た時代が、私はいい時代だったなと、大体年寄りが皆言うのは、昔はよかったなと言うのが、パソコンも何もない時代。昨日も同窓会で話をしましたけど、わしらのこの山登って海行って川で遊んでたなという、それが底辺だった。そこの人間は親が大正生まれなので、古い文化というのは結構味わわせていただいてます。親もちょっと高尚な趣味持ってて、コーラスやったり絵画もやったり、そういう親だったので、割といいものだなと思ってます。今そういうのを教えながら、どれだけの家庭が子供に与えているんかなと思います。

それで私は伝統文化、この地域なので祭りについて、この地域が一番生活の大きく占める部分だと思ってます。秋のお祭りがね、この播州地方の。それで、よく言葉にするのが、コロナによって伝統文化が継承されなくなったとか、３年やめたら継承できないとか、ということ。私もよく使いまして、去年無理やりに屋台を出したりしました。確かに日本の文化伝統というのはいいものがあって、それこそ１００年、５００年、１０００年の文化がいっぱいあるのに、そういうのが軽んじられている。今の時代。教えなくなった。でも私、去年と今年、自治会長やってて、保育園の子を山へ連れて上がる行事に参加して、阪神淡路大震災のことを園長先生が園児に聞かしてるんですよ。それで、北脇の裏の山に保育園児を連れて上がって、津波が来たら、この山に上がるんやでって園長先生が教えて、そのときに１７日に上がったんで黙禱しました。一生懸命に保育園児がけなげに黙禱してました。そのときに私は園児に挨拶してくれ言うから、君らは北浜、北脇が好きかと聞いたら、大好きと言うた。今は好きなんです。だけど今、現に中心になりつつある２０代、３０代、４０代の人が、果たしてこの土地を好きと思ってるのかなと思って。それで、みんな古いものを、新しく変えたらええと言うけど、私は変えたらいかんものは変えたらいかん、伝統文化とか。絶対に変えたらいかんもんは、例えば、７００年前の祭りをやっている、その起こりのときの原点というのは絶対に残さないかん。ただ時代に応じて形が若干変わっていくというのは構わないけど、変えてはいけないことと変えてよいこととは必ずあるからという、そういう話やと思う。若い子らにするにしても、だから何でもありじゃないよと、いつの頃からか、子ども中心の世の中になってしまって、大人が子どもに遠慮して、いろんなことを考えて対応するようになった。若い人に受けるように、受けるように、そのために本当の伝統文化が形が変えられてた。僕これはあんまりいい状況じゃないと。やはり、伝統の文化ということは、伝統の部分は変えてはいけないと思います。

だから、今こうやって取り組んでおられる方もいらっしゃることに、ものすごいことを取り組んでる。高砂で、高砂が文化都市と言うんやったら、もっと高砂の中で味わえるような企画、みんなが本当に味わえる。それと高砂以外の人が入ってきて、これを例えば、謡曲「高砂」にしろ、能楽にしろ、世間が、ほかの土地の人がこれを味わうためには高砂へ行くんやでと言うて入ってくると、高砂に住んでる人らも、高砂いうたらいいところやったんやとか急に意識する。そういう場所が私はちょっと周知してないんですけれども、そういうのがちょっと欲しいかなと思います。

○会長

ありがとうございました。

○会長

幾つかいただいたんですが、まず実はやはり、住民目線でちゃんと文化について話ができるのかというところの１点です。

それから２点目が恐らくこれ、「つながり」のところだと思うんですけど、これは言わば、習慣的つながりが本当に「つながり」なんだと。時間的つながり、過去から未来が伝統をつないでいくというのもいるんじゃないかという。

そして３点目が家庭という言葉が出てきたんですが、実はこれ、家庭は入ってないんです。子ども何かでも、学校が中心になって学校はどうなのと、こういうご意見です。

そういう意味で、「つながり」という言葉をもう少し多様的に解釈して、つむぎつながれていくというのに、「つむぐ」というものに「創造」は入らないですか。つくりだすの難しい。委員、どうですか。物語をつむぎだす何ていう言い方をしますよね。

○委員

いや、事務局と電話で話したときに、「つむぎ」の中に「つくりだす」が入っとんですけど、「つむぐ」と「クリエイティブ」はちょっと違うので、創出という意味の何か意味合いが入れられたらなというところで、ただ、「つむぐ」などに「つくる」という意味のあると思うんですけど。

○副会長

「つくりだす」とかそういう意味の言葉がね、もう既に際立って、「創造」という意味が「つくりだす」という言葉のなかに入っている気はします。

○会長

それと、いかがでしょうか。ほかにご意見はありませんか。

○事務局

申し上げてよろしいですか。

「つむぎ　つながり　つくりだすまち　高砂」ということで副会長からご意見、ご提案。

○副会長

「文化」、「文化」、と上下に重なって出てきてるので、つくりだすという何かクリエイティブに相当するような言葉は、ぜひ私も今の議論の中からあってもいいのかなとは思いました。

○会長

ほか、いかがでしょうか。今、副会長がおっしゃった「つむぎ　つながり　つくりだすまち　高砂」。

○副会長

そして、「文化と共に　未来をひらく」。

○会長

サブタイトルに文化と未来を。

○委員

ちょっとでも分かりにくい。創造って今お話を聞いて分かるんですけどね、創造ということ自体がどういうことかと思います。何に対して、誰が創造する、市が創造するのか、個々の創造なのか。それだと私は分かりにくいです。

○委員

副会長が言われていた、私も上の「文化」という言葉と、下の「文化と共に」というのが重なって文化文化なんで、もう少し簡素化できるのではないかというので、私は上に「文化と共に育つまち　高砂」で、この下の「～」をなくして、もう「未来をひらく」まで入れるといいと思います。

「つむぎ　つながり　文化と共に育つまち　高砂」、あとは、「つむぎ　つながり　文化と共に未来をひらくまち　高砂」。

○副会長

そこに「未来を」をそのままつなげてしまうということやね。

○委員

この最後の書き方は変えたらいいのでしょうが、この何々の実現というところが、一行だけになっているので、そこにメインがやっぱりきたほうがいいのではないかと思いました。それで、副会長の案だと「つむぎ　つながり　つくりだすまち　高砂」がここに来たら、何を「つむぎ　つながり」なのかが、少し分かりにくいと思いますので。

○副会長

そうですね、それは。

○委員

サブタイトルが絶対要るということであれば、そういう形もあるかもしれません。

○委員

あのね、この「つむぎ　つながり　つくりだす」というのを表に出したいわけでしょう。今の話であれば。そしたらね、「つむぎ　つながり　つくりだす」をまず前に置いて、「文化と創造が育つまち　高砂」というのは、これをしまって、「文化と共に育つまち　高砂」というのを下のフレーズで入れたらどうだろうか。

「つむぎ　つながり　つくりだす」という言葉を大きく前に出してくる。

○副会長

はいはい。

○委員

そしたら見た人がね、何のことだろうなと思うわけです。

その下にね、「文化と共に育つまち　高砂」、未来をひらくという言葉は要らないと思うんですよ。

○委員

「文化と共に育つまち　高砂」と持ってきたら、ああそうなんかって。

その辺りでオチがつくって変なんですけど。そのほうが、「つむぎ　つながり　つくりだす」という言葉が重みを持ってくるわけですよ。

○委員

それに賛同します。

○副会長

いいと思います。

○委員

それが、「～」じゃなくて、その１つですね。

○委員

「～」つけたらいいと思います。

○委員

「～」つけると、ちょっと。

○委員

おかしいかな、その辺はちょっと考えてください。

○委員

一つで行けそうな感じしますけどね。

○委員

僕は、その上の３つの言葉をね、２３ページに解説つきで入れてるんだからさ。それを表にばんと出したほうがいいなと。変な言葉でそれを弱めるよりも、こっちを強めるほうが面白いかな。それで、それだけでは何のことか分からないから、「文化と共に育つまち　高砂」というのをぽんと入れると、ああそうなのかなと思

ってくれると。この「～」は入れるかどうかは、ちょっと自分の中でも考えてます。書いてもいいかなという気もします。

○委員

「～」じゃなく「―」。

○委員

その形はどっちでもいいのかな。この形にするのか、一連のものに言われたようにするのか。僕は逆に、この「～」にせよ「―」にせよ、これ別にぽんと別のフレーズとして置いたほうがいいように思う。続けてしまうと、その３つの言葉が弱まると思う。私は。

○委員

確かにそうですね。

○委員

とにかく、この３つを印象づけたい。同じやるなら。

○会長

ありがとうございます。具体的にもう、アイデアが出てきたんですが、ほかにご意見はあるでしょうか。

○副会長

その言葉がまた決まれば、３５ページにかえってくるね。

○事務局

はい。今、委員におっしゃっていただいた理念にするのであれば、もう全てを入れる形ですね。その横の「―」を含めて、「文化と共に育つまち　高砂」までをこの黄色で塗りつぶしているところ全てに、この部分全てに入れるような形。

○副会長

３５ページの一番下に。

○委員

私もこのほうが意味があるように思います。

○副会長

今の委員の言葉のようにするにしても、変えるにしても、それまで入れるほうが分かりやすい。

○事務局

はい。

○副会長

イメージがある。

○事務局

入れないと分からない。

○会長

今、事務局提案に対して、「つむぎ　つながり　つくりだす」という言葉を入れて、「文化と共に育つまち　高砂」。

いわゆる副題を入れないというのが今のご提案ですね。ご提案というのが、今の事務局提案の部分の「つむぎ　つながり　文化と育つまち　高砂」を「つむぎ　つながり　つくりだす」としてもう一つの下の副題を入れないというのがご提案ということでした。ありがとうございます。

ほか、何かご意見ないでしょうか。ある意味２２ページ案の上と下を合わせたイメージではあるんですけども、何かご意見があれば。

委員お願いします。

○委員

私は、その委員がおっしゃったその言葉で、「文化と共に育つまち　高砂」を小さくする必要はないかなと思います。

○会長

はい、ありがとうございます。

○委員

その意図は、「つくりだす」それだけで分かるということですので。

○会長

そうですね、だから、事務局提案のこの部分に入りますから、それで問題ないということですね。

○委員

はい。

○会長

はい、分かりました。ありがとうございます。

ということであれば、ほかにもしご意見なければ、今ご提案いただきました副題、いわゆる事務局提案の「つむぎ　つながり　文化と育つまち　高砂」を、「つむぎ　つながり　つくりだす　文化と共に育つまち　高砂」という形にして、このサブタイトルをのかして、１文にするか、あるいは「―」、「～」、にするのか。

○会長

そこは少しまた文章にて見ていただいて、それで作ってみてもらってよろしいですか。

○事務局

はい。

○会長

はい、ありがとうございます。そういうことでいきたいと思います。

先ほどちょっと言った、つながるところ自体、これで時間的なつながりというのをまた考えていただいて、委員がおっしゃっていた家庭とかそういったキーワードを施策部分とかにまた反映させるような案を少し考えていただきます。

○事務局

はい。

○会長

確かに、どうしても行政施策なので、なかなか家庭に入り込めないというのがあって、そういう意味でやってないわけなんですけれども、しかし、家庭教育の重要性というのは、学校教育だけではなく、この辺ちょっと考えていただきたい部分かなと思います。

○事務局

はい。

○会長

ありがとうございました。ほか、大体よろしいでしょうか。

はい、そうしましたら、今日いただいたご意見で、構文としては方向を決めさせていただいて、その上で協議の方針に沿った形で、具体的個別計画について、また審議されたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

では、その後に、今いろんなものをいただいているところ、ご説明いただいてもよろしいですか。

○委員

はい、この「木のオト物語」ですけれども、マリンバ奏者の辻寛子さんという方。蕃画廊をなさっている辻さんのめいごさんでいらっしゃるんですね。広島大学のほうを出られて、今、東京のほうでいろんな方とセッションをしながら活動しておられます。

会場自体は高砂ではないですし、高砂の教育委員会とか高砂市の後援をいただいていらっしゃらないので、公民館などでご紹介とかはないんですけど、今、委員のおっしゃることも非常によく分かるんですね。だけど、やはり文化的なものを非常に頑張ってらっしゃる方も何人もいらっしゃいますのでね。若い子たちが高砂で育っていながら、やっぱり高砂で演奏する場がない、発表する場がない、刺激も少ないということで、東京に出たりとか大阪に出たりしてる子が非常にたくさんいます。そういう子たちが大阪とか東京の都会で、いろんなものを吸収し、ときたま帰ってきて演奏をできる場所を、市側としてつくるということも、やっぱりやっていただきたいと思います。それで、どういう人がいるのかというのもどんどん探していただきたいし、情報を集めていただきたいですので、ぜひともお願いしたいと思います。

文化連盟として補助金をいただいて、文化まつり事業の中では私どももさせていただいてますけども、年と共に疲れてきてますけれどね、若い力というのはすごいですのでね。ぜひまた確認してさしあげていただきたいと思います。

○会長

ほかはよろしいですか。

○委員

岩見玲奈のリサイタルですけれども、東京のほうでトッパンホールでリサイタルをいたします。もう日本の本当に著名な作曲家の先生方３人、世界で活躍なさっておられる先生方に新曲を書いていただいております。だからどんどん、マリンバのその世界という、もう世界的に新しいものを生み出そうというふうな動きをしておりますのでね、高砂の未来について応援支援よろしくお願いしたいと思います。

○委員

何かそういうのをね、やっていただけるような場所が欲しいですね。

○委員

学校でもね、どんどん学校公演はほかの市に行かせていただいているんですよね。私どもね。それで、コスモホールのほうで、オレンジ色のチラシ、なかなか希望者が多くて登録させてもらえなかったんですけど、このポスカの会の方も高砂の方なんです。代表の方がね。こうやって稲美町でできることを高砂でどうしてできないんだろうかと。もちろん、出演する限りは１万５，０００円、その年に払うんですけど、前は１回ステージ、４０分のステージなんですけど、出る１回ごとに１万５，０００円要ったんですけど、今は何回出演しても１万５，０００円でということでね。料金を取りながら、だけども我々もこんな発表する場があってこそ、練習の熱意も違いますしね、成長していきます。若い子たちもそうなので、どうしてもこういう機会を市側がどんどん率先してつくっていただきたいんです。そしたら一般市民から見ても、高砂変わってきたやんと。美術展のときにロビーコンサートしてくれたまちでしょ。やっぱり新しいこと、目立つこと、市民が分かること。これもそう、つくるのと同じなんですけどね、なかなか目にかなわない。だから、市民がぱっと見て高砂変わってきたと、そういうアピールの仕方をもっとしていただけたらありがたいなと思います。

○事務局

はい。

○委員

先ほどの、音楽というのは一般的に広まりやすいと思うんですけど、だから、よくクラシックなんかは敷居が高いとか言うけど、実際に行って聞いたら、そこへはまるぐらいの雰囲気になるのがやっぱりあるわけで、そういうホールとか、そういうのをする場所。

○委員

だから、高砂の新しい庁舎ができる前から何年も言い続けてるんですけどね。

○委員

ジャズにしても、今、高砂の山陽電鉄の駅で高砂高校のジャズの曲が流れるとか。高砂高校のジャズバンドを教えたのは私の友達なんですよ。ジャズベーシスト、結構世界的にも有名な方が同級生でやって、自分でライブハウスでやっていて、今はやめてますけど、それが高砂のジャズバンドを創設させて教えたんですよ。それから、ああいうのが広まって、映画になったと。例えばジャズのまち、音楽のまち高砂という分野もあっていいんじゃないかと。そういうライブハウス的なとこがあれば、こういうクラシックからジャズからポップス、そういったものがライブできるような場所が欲しいかな。そしたらよそへ行かなくても高砂で聞ける。そういうのを欲しいなと思う。

○委員

欲しいですね。

○会長

ありがとうございます。新しい施設が十数年後ですね、できるとすれば。そういう計画が一応あるみたいなんですけれども、また今後、ご意見をいただきたいと思います。前に委員からロビーコンサートができないかという話がありましたが、結局どうなりましたか。まだ結論出ない。

○委員

何年たっても変わらない。

○会長

いや僕は、何か結論が出たらでいいので、文化だけの話じゃなくて、恐らく管理担当課の話にもあると思いますから、そこら辺は少しまた情報があれば教えてください。

ほか何か意見などあればお願いします。

○副会長

市制７０周年の向けて、ちょっとこんな動きがある等、教えてください。

○事務局

はい、市制７０周年、文化も深く関わっていく話ではあるんですけれども、このほど部会が集まってどういうことをしていくのかというような、キックオフではないんですけれども、全庁的に７０周年という文言が出だしたというところに、今立っておりますので、我々も文化担当として、担当者を１人、その委員に推薦をして進めていくということなので、文化を知った者が１名、その委員にも部会にも入っているというような状況で進めております。

また進捗があれば、文化連盟に主になると思うんですけれども、ご相談をさせていただきたいなと思っております。

○会長

ありがとうございます。ほか、よろしいでしょうか。

私からすみません。芸術と文化とはちょっと違うかもしれないんですが。

高砂ではなく申し訳ないですけど加古川なんですが、まさに地産地消、こういうのをつくったので、どうぞ試食。

こういうの、地場産のものを使ってという、高砂のほうもやっておられるみたいですけども、こういうことで宣伝と、もしよければ試食いただければということで、お配りさせていただきます。

長時間にわたりましてご議論、ご審議いただきましてありがとうございました。非常に重要な点である部分、つまり大事なところですけれども、それについて皆さんの非常に真摯なご意見をいただきまして、「つむぎ　つながり　つくりだす」「文化と育つまち　高砂」というこういうテーマができました。どうもありがとうございました。これから、今日いただいた意見なども踏まえながら、文化振興実施計画をつくっていきます。どうぞよろしくお願いいたします。

そうしましたら、今後の予定についてお願いいたします。

○事務局

それでは、事務局のほうから今後のスケジュールについてご説明をさせていただきます。

次回につきましては、１１月上旬に３回目の審議会の予定をしております。今回の皆様のご意見を踏まえまして、それを修正いたしました上でご意見を伺いたいと考えております。

また、第２次文化振興基本方針実施計画についてもご審議をいただく予定でございます。なお、開催日時につきましては、また後日調整をさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

以上でございます。

○会長

どうもありがとうございました。では、私の役割はこれで終わらせていただきまして、事務局のほうにお返しいたします。

○司会

本日は大変、委員の皆様には熱心なご審議を賜りましてありがとうございました。閉会にあたりまして、副会長からご挨拶をお願いいたします。

○副会長

はい、議会棟の展示スペースが、令和５年の２月にもオープンするということで聞いてて、そのこけら落としで高砂町ゆかりの人物２９人展、前の審議会でも出た

のですが、今のところやるという格好でしておりますので、またそこが加古川市役所みたいな格好で、コンサートホール的な形で使えたらうれしいかなと個人的には思ってますけども、市としてどんなふうにされるのかなと楽しみにしております。

前に言ったかもしれないんですけども、あるちょっと荒れた学校に、新神戸フィルハーモニックに来てもらったことがあるんですよ。これはもう、生徒は騒ぐなと思ってね、本当に心配したんですよ。ところが、電波を通さずに生の音でどーんとなったら、生徒ら、（感動で）うわっとなってね、それはある程度分かりやすい曲の演奏をしてくれたんですけれども、本物の持ついうのかね、その電波を通さずに直接聞く。耳で聞くそのものの持つよさみたいなのをすごい感じました。だから高砂もそういう文化のまちというんか、その側面もあってもいいかなと思いますので、ここにつくりだすために、先ほど「つくりだす」という言葉がメインでありましたけれども、我々も協力しながら、我々も支えになるように頑張っていきたいと思いますので、よろしくお願いします。

以上です。

○司会

ありがとうございました。

本日は、これにて閉会をいたします。皆様、お気をつけてお帰りください。

本日は、誠にありがとうございました。

（午後８時０５分　閉会）